
運命の赤い糸

高橋 美羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命の赤い糸

【Zコード】

Z0003D

【作者名】

高橋 美羽

【あらすじ】

2人の記念日に、手料理を作つてお祝いしようと、トルの部屋に行つた私。散らかつた部屋を片付けている時に見つけた古い手帳。そこに書かれていたものは…

…ねえ、運命の赤い糸つて信じる？…

今日は、トオルと付き合つて2回目の記念日。

付き合つても、何故かすぐに別れてしまう私にとって、トオルと2年も続くという事は、よほどウマが合つのだ。

同じ大学に通つていた私達…学部は違つたけれど、キャンパスで見掛けた私に一目惚れした…つてトオルが告白してくれたっけ。今まで、ケンカなんかしたことがないくらい、2人はラブランプだ。

優しくて、かつこよくて甘藷の彼。

…何より私の事を、とても大事にしてくれている。

僕たちは、運命の赤い糸で結ばれてるんだよ…

…僕は、君の為なら、何だってできる…

そう言つてくれた時、涙がでる程、嬉しかつた。

本当に、運命の赤い糸つてあるんだね……

きっと、この先もトオルと、ずっと一緒にいられるんだろうなあ

…。

今日は2人の記念日…

だから、夕方まで学校から帰つてこないトオルを驚かせようと思つて、手料理を作るためにアパートに来たのはいいんだけど……。

『…その前に掃除と洗濯が先ね』

私は、散らかっているトオルの部屋を片付け始めた。

『ん? 何これ?』

机の下に分厚い手帳が落ちていた。結構、年季が入つていいらしく、革の表紙が、ぼろぼろになつていてる。

トオルに悪いかなあ…と思つたけど、パラパラと中を開けてみた。

中身は日記になつてゐるらしく、細かい字でたくさん書いてある。

『2004年だつて…3年前があ…。私達が大学1年の時だ…』

3年前、2人はまだ出逢つてなかつた。

付き合つ前のトオルの事をよく知らない私は、悪いと思いつつ、日記を読む事にした。

○月×日…

やつと、運命の人を見つけた。

君に一目惚れしたんだ。

このキャンパスにいるという事は、同じ大学なんだね。

でも、僕はすぐに失恋したんだ。

君と付き合つのは難しそうだね。

君の隣には、体育会系の「ツイ男がいる…。

ヤツと別れる日が来るまで、僕は待つよ。

…こつまでも待つよ…

○月×日…

君が泣いている。

どうやら彼氏と、別れたらしい。

…あんな男、君には相応しくないよ。

なかなか別れないから、僕が別れさせてやったんだよ…

だって、君の恋人は僕なんだから…

待つて…

すぐに迎えに行くよ。

○月×日…

バカな女が、君を合コンに誘つてこる。

早く手を打たないと、君がさらわれてしまつ。

余計なことは、しないでほしい。僕の計画が口無じじゃないか！

『なに……これ…』

もうこれ以上、見ない方がいい…。 そう思つても、読みたい衝動は、抑えられない。

私は、恐る恐るページをめくつた。

○月×日…

君は今日友達と、好きな芸能人の話をしていたね…。

そいつと同じ顔なら、僕の事、好きになってくれる?

待つて…そいつと同じ顔に整形して、君に逢いに行くから…。

私は、何かを思い出したようにトオルの部屋を後にした。

嫌な予感がする…

…単なる偶然であつてほしい思いと、必然的に仕組まれたのかも知れないという恐怖感…。

怖くて、胸が潰れそうになる。

でも私は、その事実を確かめずには、いられなかつた。

自分の日記を片手に、トオルの部屋に戻つてきた。

息を切らせながら、昔の自分の日記と、トオルの日記とを照らし合わせてみる。

トオルの日記に書いてあつた、女の子が彼と別れて泣いてた日…

私の日記には、付き合つてた彼氏と別れた事が書いてある……

何かに怯えるように、私の元を去つて行つた彼。

彼との別れに、トオルも関係しているのだろうか？

女の子が合コンに誘われた日…

私の日記には、友達のヤスコから、合コンに誘つてもうつた事が書いてあつた。

新しい出会いを少し期待していた私…

…だけじゃの�の�^{ハジメ}、田中尚田、ヤスコが交通事故に遭つてしまい、それどころではなくつてしまつたのだ。

そして、トオルの日記の君が、好きだと言つてゐる芸能人…私も芸能人の中では好きなタイプなのだ。

偶然なんかじゃない。

やつと、確信して、私はあの日の日記のページを探す…

2年前、トオルに告白されたあの日…

そして僕は、君を永遠に離さないよ。

…だつて僕達は、運命の赤い糸で結ばれてるんだから…

声が出ない…

私の身体に、冷たい何かが流れしていく。

多分、血だと思つ…

血の気が引いてるんだ…

そこには、突然帰つてきたトオルが赤い紐で、私の首を締めていく。

途切れしていく意識の中、私はトオルの優しい声を聞いた…

…ねえ、運命の赤い糸つて信じる?…

(後書き)

高橋です。

Bank～の続編や、新しい物語を書いていて行き詰った時、書いたものです。（こちらの方が先に出来上がってしまいましたね）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0003d/>

運命の赤い糸

2010年12月18日14時23分発行